

総合分析実験センター シーケンスの結果をWindowsで見る

2002年6月10日

センターの研究支援業務で圧倒的な人気を誇る「DNAシーケンス」では、依頼者に結果を紙で渡すだけでなく、シーケンサの吐き出したファイルそのものをメールで送るサービスを行なってきました。

シーケンサはMacintoshベースで動いており、当然ながらメーカーから供給されるビューアソフトもMacintosh用しか存在しません。しかしそこは「必要は発明の母」というヤツで、作っちゃう人がいるわけです。シカゴ大のDavid H. Klatteさんに感謝して、使わせて頂きましょう。

I. 必要なファイルを用意する

学内でWindowsからアクセスできるファイルサーバといえばBisonしかありません。右の図のように「GAKKA&SHISETSU」の「アーカイブ公開」の「センターアプリ」内に自爆型アーカイブの形で置いておきましたので、これを自分のマシンにコピーしてください。ここでは例としてD:ドライブの書類フォルダに新しいフォルダを一つ作って、そこにコピーしてきました。ちなみにうっかりWindows XP Home Editionを買っちゃった人は、Bisonには接続できません。家庭でNetwareサーバ動かす人なんて想定されてませんので、出来なくてもいいんです。仕事で使いたければProfessional Editionを買いましょう。

さて、自爆型アーカイブですから、ダブルクリックするなどで実行してやるとバラバラになります。途中で展開先を指定するダイアログが出ますので適当に指示しましょう。今回は、そのまま同じフォルダに展開しましたが、これは悪い例です。まじめな人はprogram filesフォルダに新しくABIViewフォルダでも作って展開するものです。さらにスタートメニューに追加すると完璧ですね。

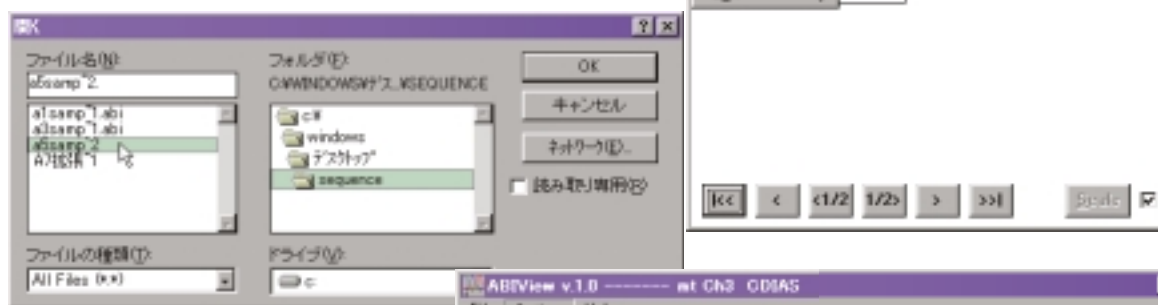


II. 起動する

もちろん abiview.exe をダブルクリックすれば勝手に起動します。ほかにどうしようもないですね。隣に見える ABIView.txt にも説明が書いてありますので、時間のある時にでも読んでください。

III. データを読み込む

それではいよいよデータを読み込んで表示するわけですが、注意点が2つあります。一つめは、このソフトはDATAファイルをダブルクリックして開くように設計されていません。ファイル名がどうなっていようと、アイコンがどういふふうに見えていようと、DATAファイルをダブルクリックするのは無意味です。必ず「File」メニューから開いてください。もう一つの注意点ですが、このソフトはWindowsのロングファイルネームに対応していません。DOSの時代から変わらない8バイト+3バイトの、本当のファイル名だけを認識します。右の図のようなフォルダを開く時に、ダイアログは下の図のようになるわけです。



配列データは「Options」メニューでクリップボードに取り出して他のアプリケーションに持ち込めます。波形データを画像に描きだす機能はないので、スクリーンキャプチャでクリップボードに取り出して使用してください。

